

活動報告7

美深・美林の会／美深町

報告者 草野治さん

美深町では、昭和62年から、シラカバ樹液を原料とする清涼飲料水を製造する工場が運転されています。当会は町内仁宇布地区の7.2ヘクタールの広葉樹林をフィールドに、地元の「ニウプリ山保全の会」とも協働しながら、シラカバ樹液抽出をはじめとする森林資源の利用と保全活動に取り組んでいます。交付金のうち、地域環境保全タイプ、森林資源利用タイプ、教育・研修活動タイプ、および資機材補助金を利用しました。

森林には老木も多く、樹液採取のためにも森林更新が必要です。枯損木や風倒木の除去、作業道の草刈り、密集地の間伐、また間伐材を玉切りして薪材生産を行ないました。樹種によって乾燥方法が異なるなど、まだ試行錯誤の段階ですが、最終的には薪の販売につなげたいと考えています。

また、教育・研修活動として、上川北部森林室の協力を得て、地区の子どもたちを対象に、森林散策や、シラカバをホダ木とするナメコ栽培の体験会、移動式炭化炉を借りて木炭づくり体験などを行ないました。

こうした活動のおかげで環境の改善が進みましたが、さらに継続して整備を進めたいと思っています。町内では毎年「白樺樹液春まつり」（4月）が開かれ、当会も協力団体として参加しているのですが、これまで荒廃して使いにくかった作業道を整備し直したおかげで、樹液採集体験会の参加者を多く迎え入れること

ができました。

シラカバは樹液だけでなく、樹皮を工芸素材に用いることもできます。美深町内にも工芸家がお住まいです。間伐材をこうした樹皮利用、さらに薪材として活用していけるのではないかとプランを検討しているところです。キノコや木炭づくりはまだ基礎的な段階ですが、これまで蓄積したノウハウを生かして、さらに継続して研究していきたいと思っています。

